開催報告

令和元年度日本表面真空学会九州支部
学術講演会開催報告

鈴木 孝 将*

福岡大学工学部

☎ 814-0180 福岡市城南区七隈 8 丁目 19-1

(2019 年 6 月 6 日受理)

Report on Reiwa 1st Annual Meeting
of Kyushu Branch of The Japan Society
of Vacuum and Surface Science

Takayuki SUZUKI*

Fukuoka University, Fukuoka 814-0180

(Received June 6, 2019)

日本表面真空学会・九州支部では、毎年各大学持ち回りで学術講演会を開催しています。本年度は福岡大学が担当して、6月1日(土)に七隈キャンパスにて講演会が行われました。今回の講演会では、最終的に総講演数21件(内招待講演2件)、参加者数50名(内学生数25名)を数えました。九州地方のみならず、中国地方や関東地方からの参加者もおられました。

講演会では、スパッタ法やCVD法などで成膜した半導体薄膜やダイヤモンド薄膜に関する研究や、 C_{60} ・カーボンナノチューブ・グラフェンといった炭素系材料の作製や応用に関する研究、さらには第一原理計算での有機半導体分子の研究やスタネンの研究まで非常に幅広いトピックスについての講演が行われ、活発な議論がなされました。

また、招待講演では、福岡大学の山辺純一郎先生から「優れた水素侵入抑制機能を有する表面皮膜の開発」という題目で、将来の水素エネルギー社会で課題となりうる金属材料の水素脆化と、それを防ぐための表面被膜について大変興味深いご講演をして頂きました。母材への水素侵入を防ぐには、皮膜そのものよりも皮膜間の界面に水素をトラップする方が重要だということ等の面白い結果を紹介して頂きました。

もう一つの招待講演では、大阪大学の坂本一之先生から「原子層物質における新奇スピン偏極電子バンド」と

Fig. 1. (color online). A scene of the lecture.

Fig. 2. (color online). A scene of the exchange-meeting.

いう題目で、トポロジカル絶縁体やラシュバ効果といった特異な物性を示す二次元原子層物質について、大変興味深いご講演をして頂きました(Fig. 1)。光の照射量を調整することでトポロジカル絶縁体にナノメートルスケールで光誘起ドーピングを行うことができること等を紹介して頂きました。

また、学生講演奨励賞には外国人留学生2名を含む15名の応募があり、審査により5名の受賞者が選ばれました。講演会終了後は、場所を福岡大学文系棟スカイラウンジに移して交流会が開催され、合計23名の参加がありました(Fig. 2)。交流会の場で学生講演奨励賞の表彰式が行われ、九州支部長の佐賀大学の嘉数誠先生から受賞者に賞状と副賞の授与が行われました。

福岡大学の久保田純先生、香野淳先生をはじめとする関係各位のご協力のおかげで非常に充実した講演会になったと思います。ここに深く感謝いたします。

* E-mail : tsuzuki@fukuoka-u.ac.jp